

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300860		
法人名	(有)日本サポート・リンク		
事業所名	色えんぴつ・鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市下大久保町2290番地の12		
自己評価作成日	令和3年8月3日	評価結果市町提出日	令和3年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470300860-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3年 8月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在要介護1～要介護5の方がおられるが、それぞれの状態に応じた支援を行っており、ベッド上で安静の方、ほぼ一日居室で過ごす方や自分のペースで自由に生活しておられる。また毎月1度は外出行事を取り入れていたが、コロナウィルス感染予防の為外出は控えている為、施設内で楽しめるようクリームソーダ喫茶や甘味処を開催したり、干し柿作りや梅干し作りを一緒に行い少しでも季節を感じられるような取り組みを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺を畑や緑に囲まれた静かな環境の中にある平屋のグループホームである。毎朝夕、畑のあぜ道を散歩される利用者もおり、散歩されている近隣住民とふれあい会話を楽しんだり、近くの畑で野菜を自分たちで育て、畑の手入れ、収穫もして食事の材料にするなど地域に届けこみながら日常生活を利用者は送っている。職員も、コロナ禍で外出制限のかかる中、その範囲で利用者に室内で行えるイベントを毎月行ったり、昔のDVDをみんなで鑑賞するなど支援を行っている。勤務年数が長い職員が多く、管理者も現場に入っていることから、利用者とも信頼関係を築き、利用者はアットホームな雰囲気の中生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない(コロナ影響あり)
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識できるよう目につきやすい場所に理念を掲げている。可能な限り利用者一人ひとりに応じた支援を実践している。	「あなたらしくいつまでも」を法人理念に、利用者の個性や生き方を尊重し、日々の生活を個人のペースで生活できるよう職員は支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防の為地域との交流は殆どないが、毎日の畑道の散歩では近隣の方に出会うと挨拶や世間話程度の会話はしている。	コロナ禍で積極的に地域との交流は以前ほど行われていないが、自治会長が広報を事業所に毎月届けに来園し、地域のイベントの紹介や幼稚園との相互交流の窓口になってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせる機会が持っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染予防の為今年も開催できていない。近況の報告書を利用者家族、市町、地域に配布している。	現在は偶数月に、運営推進会議資料を参加者にFAX・郵送し開催している。広域連合や包括だけでなく、家族全員にも書類を郵送、その際アンケートも同封し意見を集めサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合には毎月利用者数待機者数を報告している。また包括支援センターには推進会議に参加してもらい取り組みの報告をしている。空室ができた場合や困難事例の相談や協力をお願いしている。	地域包括には空床の相談や身近な相談をしている。広域連合には事故報告や利用者生活保護受給者がいることから、受診の連絡や定期的に金銭管理の報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正委員会を最低3か月に1度開催している。必要な事例があれば検討している。現在は危険回避のため必要最低限の時間帯のみ出入口の施錠をしている。	毎月末に行われる職員会議に合わせて、身体拘束等適正委員会を開催している。リモートで開催されている研修にも積極的に参加し、その内容をもとに勉強会も開き、前回はスピーチロックについて勉強会を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を作り知識を高めたり、職員間での意見交換の時間をつくったり、不自然なアザ等見過ごさない様注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を作り知識を高めている。現在は該当する方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や終結の際はゆっくり時間をかけ納得、了承いただけるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は職員と1対1になる機会にいろいろな要望を伝えてもらえる。また何気ない日々の会話のなかから思いを吸い上げるよう意識して会話を持っている。家族からは面会の際に要望を聞いている。	毎月家族には利用者の日々の様子を生活担当職員が記載した写真入りの便りを送付し、利用者の様子を伝え、運営推進会議前には家族に毎回具体的な内容のアンケートを郵送し、家族の意向を聞き取る機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個人面談、毎月開催の職場会議及び事務所訪問時には必ず職員に声掛けをして意見提案を行いやすい環境を作り、職員の意見・提案を吸い上げ、運営に反映させている。	毎年9月に、法人代表が職員と1対1で個人面談をして、仕事の目標の確認、運営に関する意見を聞く機会を設けている。また管理者も支援現場に日々関わっている為、職員と意思疎通が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の個人面談で、本人の目標を聞き、職場訪問時など進捗状況などを確認して、給与に反映させている。職場環境改善については、現場からあがってくる事については、スピーディーに対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内は、職員全員に公表して、時間が許す限り参加を呼び掛けている。コロナの影響でほとんどがズームなどの開催となっているが、事務所のPCからの参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、外出がむづかしいので、研修に積極的に参加して、ズーム上ではあるが、他事業所の状況などを把握し、意見交換ができる場合は行うようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報を出来るだけ詳しく聞きとり本人の困りごとや要望をくみ取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談では家族間の介護力等なるべく詳しく話してもらえよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は自分でしてもらっている。日常生活を一緒に過ごす接し方を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ家族に支援を依頼している。行事等にも参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染症予防の為面会禁止としている。時々古いアルバムを見たり懐かしいDVDをみて当時の話を聞いている。	コロナ禍で親戚・兄弟の来園もお断りせざるをえないが、暑中見舞いや年賀状を職員と一緒に書いて郵送したり、利用者の古いアルバムを見て昔話を聞いたり、病院送迎時に以前の住居近くを通過して馴染みの場所を思い出して頂けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり会えるような声かけや一緒に散歩に出掛ける等橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最終後も状態を尋ねたり家族や転居先からの問合せもあり必要な情報を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり自分のペースで過ごせるように支援している。利用者からの意見や要望がでたら可能な限りで実行している。	日常の会話から、利用者の意向を利用者本位で聞き取り、難しい場合は表情から読み取るようにしている。コロナ禍で利用者には様々な制限があるため、食べたいものに関してはなるべく利用者の意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出来るだけ以前の生活の様子を詳しく聞き取り、必要な物は持参してもらいなるべく変わらない生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその日の状態はバイタルチェックで確認している。状態に応じた対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で支援の方向性、支援の変更の提案を共有し介護計画へ反映している。本人、家族の希望要望を取り入れ状態に変化があった時は変更している。	利用者・家族の意向をもとに、特別な事情がなければ半年に1回主治医の意見も参考にケアプランを作成している。毎月カンファレンスを行い、半年に1度のモニタリングをしてプランの達成度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の介護士が状態の変化、体調、認知の進行具合を観察しケース記録にあげ会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な支援が受けられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の先生とは密に連絡を取り合っている。バイタルリンクの活用もしている。在宅医療も受けている。	入所契約時、家族・本人の同意を得てかかりつけ医を施設の協力医に変更している。協力医への通院は職員が同行していたが、現在はコロナ禍の為、月2回の往診に切り替えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師に入ってもらっており夜間もオンコールで何か変わった事があれば相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はすぐに情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りで家族の要望に合った終末期の支援が出来ている。職員間も方向性の共有ができています。バイタルリンクの利用で24時間指示を受けられるようになっている。	入所契約の際、家族・本人には看取りの方針は説明し同意を得ている。体調急変時も家族・本人とは何度も意向の確認を行い、看取りの要望がある時は主治医の指示を受けて看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の一環で通報や応急処置の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね3か月に1度避難訓練をしている。地域の防災訓練にも利用者と一緒に参加している。	年2回消防署管轄の下、火災訓練・夜間想定避難訓練等を行っている。12月には地域の防災訓練に職員・利用者が参加して、地域住民と共に防災意識を高めている。食料・水等を3日分備蓄し災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者ごとに話方や話題を変え、その人に合った声かけをしている。職員間では名前を出さずイニシャルで呼んでいる。	一人で入浴を望まれる方には見守りに対応し、トイレでの排泄・着替え時などは、他の利用者や職員の視線に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を話しやすい様な声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は食事時間以外決まっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めや顔そりの要望に応じたり、ほしい衣類を家族に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生膳の提供をしたり食材や献立を一緒に考える等食への関心を持ってもらえる声かけや片付け等できる方には手伝ってもらっている。食欲が増すように明るい声かけを心がけている。	行事担当の職員が月1回利用者の要望を聞いて、たい焼きを焼いたり、利用者と一緒に畑で作った野菜を食材にしたり、誕生日月には利用者の食べたいものを聞いて提供している。料理の盛り付けや下膳を、職員と一緒にしている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく栄養が摂れるよう気を付けている。水分は一日1500を目途に提供している。 ムセがある方にはトロミをつけたり素材によってはミキサーにかけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを行っている。また定期的に訪問歯科を利用して口腔の状態をみてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を防ぐ取り組みは難しいが失敗に対し気にしないような声かけを心がけている。下着の上げ下げ等自分でできる事はしてもらったり紙パンツを下着に変える取り組みは試みている。	4名の利用者が紙おむつを布パンツに変えて、トイレでの自立した排泄を目指している。夜間はポータブルトイレを利用の方もいて、排泄表を参考にトイレ誘導の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便できるよう牛乳やヨーグルト、ヤクルトをほぼ毎日提供している。排便チェック表で便秘の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立の方には一人で自由に入浴して頂いている。要介助の方については日時は決めざる負えないが楽しめるような会話や歌を歌ったりしている。拒否があれば日をずらしたり汚染があればその場でシャワー浴をしている。	入浴の時間は特に決めず、週3回の入浴支援を行っている。一人で入浴したい方は見守りで対応し、入浴が困難な場合は清拭を行っている。季節ごとにしょうぶ湯・バラ湯・ゆず湯等、工夫して入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後昼寝したり状態が悪い方は居室で休んでももらったり、利用者の生活習慣に添って対応している。必要時には主治医に相談して眠剤を処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を往診や受診があった際には業務日誌を確認して定期薬に変更があった場合に把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のなかでそれぞれができる事を手伝ってもらっている。昔にしていたであろう梅干し作り等教えてもらいながら一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染症予防の為外出行事は行っていないが、近隣の散歩や施設内で行ける催しを行っている。	毎朝、夕に近隣への散歩を日課にして近隣住民との会話を楽しみにされている利用者や、畑の草抜きや収穫作業を職員と一緒にやる方もいる。コロナ禍で外出機会は大きく減っているが、コロナ対策をしたうえで10月には畑で芋ほりしたり、紅葉を見に行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は個人的に財布を自分で管理しておられるが外出できない為現在は使用していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をしたり、施設iPadで行事の動画やテレビ電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、その日の時記を分かりやすくホワイトボードに明記している。毎日掃除や除菌の徹底と室温、湿度を快適に調節している。	陽光がさしこみ明るいリビングで日中利用者は過ごしている。職員は調理中でも対面式の台所からリビングの利用者の様子を見守りすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースの席や食卓の席は特に指定していないが自然に気の合う人同士で隣に座っている事が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には家で使っていた物を置いている。また家族の写真や思い出の物を飾っている。	利用者それぞれラジオやテレビ、冷蔵庫を持ち込んだり、壁に家族写真を飾ったり自分の部屋にしている。晩酌の習慣があった利用者は、冷蔵庫にビールを1本毎日職員が補充し、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。また廊下等必要な個所に手すりが設置してあり安全に生活できるようになっている。		